

2017年度（平成29年度）学校評価報告書

（1）学年について

今年度も各学年当初掲げた目標についてほとんどの項目において達成できた。特に、以前より教育保育活動の中心としている基本的な生活習慣を園生活の中で身につけさせること、集団活動の基本を身につけ小学校へつなぐことについては達成できた。また、個々の特性に応じて自尊感情を大切し、何事にも前向きに取り組もうとする心情を育てるということについても、当初のねらいであった一定の水準を達成できた。こうした結果から、今年度も保護者の皆様から高い評価を得ることができた。

今年度から取り組んでいる園児の主体性を大切に設定保育のあり方、異年齢間の連携教育のあり方についても新しい取り組みを行い、一定の成果をあげることができた。この成果を基に2018年度からの新教育保育要領に基づいた活動を推進したいと考える。

（2）各分掌について

各分掌とも当初掲げた目標についてほとんどの項目において達成できた。午後の預かり保育については、預かり担当教職員の更なる創意工夫により大変高い信頼と満足度を得るにいたった。その他、各分掌の取り組みについても保護者から十分な満足度が得られ、アンケート結果でも全項目について「満足している」以上であり、ほとんどの項目が「大変満足している」と高評価になっている。また、進学情報に関する保護者同士の交流についても今年度はPTA4役様はじめ卒園・在園保護者の皆様のご協力で「保護者による小学校受験相談会」を実施することができ、保護者の方々からも喜ばれた。

（3）リスク管理

リスク管理面における予防措置や対策、また解決について多くの保護者の皆様からの理解を得、信頼を維持することができた。

（4）重点課題について

昨年度に続き、本園が掲げた重点項目①教育・保育力の向上②安全安心な環境作り③カリキュラムの改善・教育課程・保育課程のスムーズな接続④教育・保育活動への保護者の理解の深化⑤安定した園児募集⑥学院各校との連携強化の6項目について、当初の目標を達成できた。主な具体的内容は以下のとおりである。①各種研修会へ積極的に参加した。②日々環境整備に努めるとともに3年計画の空調機器更新は2年目の目標を達成した。③接続を考慮したカリキュラムを作成・実施し、システム化を図った。④今年度も家庭のコンピュータから日々の保育の写真を見られるようにしたことで、日々の子どもたちの様子を今まで以上に知らせることができた。⑤今年度も順調に募集活動は進んでいる。⑥学院各校の協力のもと、他の幼稚園には無い行事やカリキュラムを展開することができ、保護者満足度アップの大きな力になっている。（例）小学校長による読み聞かせ、小学校理科教員による科学遊び、小学校・大学施設利用、大手前中・高等学校吹奏楽部によるコンサート等

（5）苦情案件

公表を必要とする案件については無かった。

（6）総括

前年度の学校評価アンケートの保護者満足度の少し低い項目、自由記述に出てくる要望等を真摯に受け止め、積極的な改善を実施し、ほとんどの保護者の方に満足いただける結果にまで高めることができた。これは幼保連携型認定こども園追手門学院幼稚園の全教職員が心を一つにして取り組んだ結果であり、教職員の日々の努力の成果である。